

超党派フリースクール等国会議員連盟合同総会 チア・につぼんからのレポート

12月3日開催の議連総会（会場：衆議院第一議員会館）でのチア・につぼんからの報告の際に、国会議員、文科省、関連団体の皆さんにお渡しした資料の全文です。「教育機会確保法」の見直しは、1年後に行われる予定で、検討が進んでいる中、関連4団体とともに、チア・につぼんも報告を要請されました（関連記事 P7/P8）。神様からの祝福を、引き続き、お祈りください。

「教育機会確保法」で法的環境整備が大きく前進！

議連の各先生方、文科省、法務省、関係各位の皆さんのご尽力で成立した「教育機会確保法」の威力は大きく、大変感謝しています。

【現状報告と提案】

全国各地の教育委員会等がホームスクーラーの親御さんと話し合いを持たれる時、約95%以上の教育委員会の皆さんは、理解や敬意を示されます。

しかし時に不条理な威圧的な対応が約5%ほどあります（チア・につぼん調査）。最近では、警察や児童相談所も含めて面談を求められ、プレッシャーを感じるケースもあります。

そのような場合も含め、「教育機会確保法」を特集した「チア・マガジン43号～46号」4冊とともに、最善の教育環境を願う親子の真摯な取り組みを説明すると、いずれのケースも条文にある通り「多様な学習の重要性を鑑みて」、敬意と理解、あるいは礼節を踏まえた姿勢をもって接して下さっています。

「多様な教育」「ホームスクーリング」が1980年代から拡がり、全米50州で合憲合法となっているアメリカでも、法制度はあいまいな表現に努め、機能している傾向があり、日本の「教育機会確保法」と類似しています。たとえばカリフォルニア州では「PRIVATE SCHOOL」としてホームスクーラーが届け出すればOKであり、テキサス州では、そもそも義務教育条項がありません。今回の「教育機会確保法」もあまり定義づけ等を明確にし、



写真右から 浮島とも子議連理事 / 文科副大臣、寺田学議連事務局長 / 元首相補佐官、河村建夫議連会長 / 元官房長官・文科大臣、馳浩元文科大臣・議連幹事長 / 元文科大臣、笠浩史議連幹事長代理 / 元文科副大臣

逆に規制が強まるよりは、現在の緩やかな理解と責任の元に環境整備が進んでいく方法が良案と思われれます。

実際、「教育機会確保法」のおかげで関係者の理解と環境整備が進んでいます。全国のホームスクーラーの中には、社会や世界に貢献する志をもって、その実力を発揮する子どもたちが始まっています。政府系の奨学金を得ながら、コンピューターのプログラム制作の世界大会で優勝者が出たり、音楽、スポーツ、美術等の全国規模の大会で入賞したり、様々なボランティア活動で活躍したりしています。ホームスクーラー卒の弁護士、公認会計士、TBSの首相番記者、医師・看護師、教師、宣教師、建築家、声楽家、美容師、果樹栽培農家らも徐々に誕生しています。

今度の法改正については、現時点では特に修正の希望はなく、多様な教育を育てていく法の理念、スピリットを失わず、強化し、促進していかれてはと思っている次第です。



「教育機会確保法」に関する議連総会にて報告・提案する筆者（左端）

ただ1点、チア・にっぽんとして調査中の点は、大学入試、資格試験、就職試験における公平性の確保についてです。上記の通り、幸い、難関と言われる大学や学部への進学、資格の取得、就職も進んでいます（添付資料をご参照ください。チア・にっぽんマガジン44号2016年9月6日発行より）。とはいえ、昨今の医学部の男女間での不公正な扱いと同様に、本人に実力があり、面接や筆記試験もうまくいったと思われるケースでも、同じ点数で競っている場合、不合格になっているのではと推察されるケースもゼロではないかと思えます。また、AO入試、推薦入試は国公立大系でも、内申点4.0以上等の条件があり、高認等による受験資格はなく、門前払いの状況の大学もあります。このあたりは、まだ私どもも調査中であり、また、一般入試に向けての受験者のさらなる実力アップを励行していますが、同時に、文科省、また議連の皆様への応援や力添え、必要に応じた制度の改善は、かなり効力を発揮するのではないかとはいえます。

教育委員会等はもちろん、進学、就職先、社会全般に向けて、同法についての全国的な周知・啓発活動は私どもも尽力を重ねていく所存ですが、議連の先生方、文科省、厚生省らの皆様による「調査」、「指導」や「通達」、「制度改革」の力は大き

いです。メディアの使命と力も強力です。

「教育機会確保法」への周知については、同法のスピリットの確信である「多様な学習の重要性を鑑みる」との基本理念や文言についての強調も含め、今後も、引き続き、全国の教育委員会、大学・企業等も含めた学校、児相等への周知・啓発活動を継続いただければと願っています。私たちも努力を重ねます。

尊いご尽力、本当にありがとうございます。今後とも、どうぞ、よろしくお願いします。

【チア・にっぽんに寄せられている学校・教育委員会とのやりとり、教育機会確保法に感謝した声】

以下、この1ヶ月でチア・にっぽんに寄せられた「教育機会確保法」関連の報告・相談等です。

●（前略）先程、教育委員会からホームスクーリング中学生となる次女についての電話がありました。過去に話した高圧的な若い男性と違う担当者でした。語られた内容は「上の子（長女）と同様ホームスクールするなら、過去に説明した内容と同じだが、出席しなければ卒業できなくなる可能性もあるので、ご了承ください。あと、現在と同様、学校と連絡を取り合って状況確認させてください」ということでした。おっしゃっている内容はともかく、その姿勢や口調は、ずいぶんソフトになっていました。

5年前は「日本国籍を持つ子には（ホームスクーリングは）認められない」「小学校を卒業できない」「小学校を卒業できないと中学に入学できない」などなど脅迫めいたことを言われました。高圧的な言い方含めて当時の私はかなり動揺しましたが、今は「教育機会確保法」のお陰で、その説明をすれば良いという安心感もあり、「わかりま

した。では学校と相談いたします」と穏やかに応えることができました。

(その2週間後・学校側と話して)

今日、長男の入学する小学校で就学時健診がありました。教育委員会に提出した入学意思確認の書類には「ホームスクール希望」と明記していました。

親子面談の時、2年前の姉(ホームスクーラー)の担任が座っていました。その先生はホームスクールをいつも面白がってくれて、感心してくれていました。なので話が早く、娘の近況を報告したあと、「今後どう話を進めたらいいですか?」と聞いたところ、「今、校長と話せばいい」とすぐに案内してくれました。

校長先生は、ホームスクールを始めた時に面談した方の後任の方です。赴任してこられた2年前は特に面談もせず、でも、娘のために一人だけの卒業式をしてくださいました。

教育委員会からも連絡は行っていたようですし、今まで通りで、ということでスムーズに話がすすみ、和やかに終わりました。区の「前例」になれたかな、と思いました。(東京 Aさん)

●先週の金曜日、急遽小学校の副校長先生に会うことになり、主人と行きました。副校長先生は「私、ホームスクールについてよく知らなくて」ということで、最新のチア・にっぽんマガジンから遡って「教育機会確保法」が特集されている4冊を出し、主人がじっくり説明することができました。マガジンがあるとインパクトがあって、話もしやすく、よく聞いてもらえました。「私にも子どもいますが、理想の教育ですね」とおっしゃり、最後にマガジン4冊を差し上げると、「勉強させていただきます」とのことでした。お渡しできて本当に嬉しかったです。ホームスクールしていなかったら、校長先生や副校長先生に個人的に会うこともないですし、大変、感謝です!

(東京 Bさん)

●今朝、妻と小学校の副校長先生に呼び出されました。教育委員会から「3日以上休んだ生徒がいたら『虐待やネグレスト』がないか確認するように」と指示があるとのこと。息子たちは一回も学

校に来ていないのでお話を聞きたいとのことでした。

妻が最近のチアのマガジンを準備していたので、早速取り出し、チア・にっぽんが立ち上った経緯、ホームスクールについて「教育機会確保法」をめぐる国会でのやり取り、そして、ホームスクーラーの上の3人の子どもたちの進路(チア注:長男・さいたま医大、次男・早稲田大教育、長女:和泉短期大学(保育))についても話せました。

「親が子どもの教育に責任を持ち、共に成長していく」というチア・にっぽんのセミナーに参加して僕たち夫婦が決心したこと、また、毎年のセミナー、サマーキャンプ、チアオリンピック、被災地へのボランティア活動等を報告したところ、「素晴らしいですね。子どもたちは親の背中を見て育つ。私も親なのですが」と最後には温かいお言葉をかけていただきました。

もし、チアの働きや教育機会確保法成立に労された皆さんの働きがなければ、ホームスクールの説明をする時にも説得力がないと痛感しました。学校の帰りの道でも「本当に、チアの働きや教育機会確保法を成立してくれた皆さんに感謝だね」と話しながら家に着きました。本当にありがとうございます。(東京 Cさん)

●学校と教育委員会には、事前にチアマガジン43号~46号等を渡し、教育機会確保法の成立過程でのやりとりも含め、ホームスクーリング、チア・にっぽんとの活動について理解してもらい、ミーティングの場を持ちました。学校長は「ホームスクーリング」で子どもたちを教育する姿勢について、理解を示して下さり「今度、保護者が集まるPTA全体会があります。そこでホームスクーリングについて話してください。約180名あまりの児童の保護者の皆さんが参加されます。学校側としては、個人だけのホームスクーリングでなく、チア・にっぽんともよく連携されていることも話してくださいと助かりますので、それも話してください」とのことでした。当日、緊張しましたが、とても楽しく話せ、皆さんもあたたかい雰囲気の中で話を聞いてくださり、感謝でした。「教育機会確保法」も大変、感謝でした。ありがとうございます。(福島 Dさん)